

交換留学(派遣) 帰国報告書

皆さんが無事留学を終えられたことを嬉しく思います。本報告書は以下の目的のために使用されます。

- ① 皆さんの留学に関する状況を把握するための資料です。
- ② 今後、交換留学プログラムを改善するための重要な資料となります。
- ③ 留学を考えている後輩達のための有益な資料となります。留学経験を共有するために、ぜひご協力ください。

本報告書は帰国後、1ヶ月以内に写真データと一緒にメールで提出してください。



あなたの情報(本報告書を閲覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません)	
留学先大学:	ワシントン大学
留学先での所属学部・研究科:	経営学部
留学先での在籍身分:	交換留学生
留学期間:	9ヶ月
神戸大学での所属学部/研究科:	経営学部
学年(出発時):	3年生
帰国日:	6月11日
本報告書記入日:	2024/6/26

1. 留学先大学について

1-1	受入許可書(Acceptance Letter)を貰えた日	6月 6日
	参加必須のオリエンテーション日	月 日
	学期:	① 9月 27日～ 12月 15日
		② 1月 3日～ 3月 15日
③ 3月 25日～ 6月 7日		
	④ 月 日～ 月 日	
1-2	留学先大学の特長、人気のある分野等について記入ください。	UCLAなどと同じくpublic ivyというアメリカのトップクラスの公立大学のグループの一つとして位置付けられている大学。医学やコンピューターサイエンス、ビジネススクールが看板学部である。
1-3	留学先大学のサポートについて記入ください。	
	語学面でのサポート:	特に利用しなかったのでよくわからない
	勉強面でのサポート:	core coursesに位置付けられている授業に関しては、補習があり、自分も実際にテスト前など利用していた。
	精神面でのサポート:	カウンセラーがいると聞いたが、利用したことがない。
	住居・生活面でのサポート:	寮に住むと、RAと呼ばれるフロアの学生のリーダーや、寮を取り仕切るAlumniがトラブル等あれば手助けをしてくれる
	課外活動のサポート:	Fosterが多種多様なイベントの機会を設けている。
1-4	近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。	クリックで別シートへ

2. 住居について

2-1	住居についてアドバイスを含ま自由に記入してください。(気を付けること等)	今回、私自身が留学した経験から、必ずしも学内の寮に住むことがベストなオプションではないということをお伝えしたい。寮費は年々上昇しており、私のケースでは月25万円を支払って、仕切りなしのダブルルームであった。ルームメイトとの生活はトラブルも多く、心身ともにストレスがかかるので、留学生活の質に大きく影響を及ぼす。(ストレス耐性を鍛えることも留学の目的の一つとして考えるという考え方もあるが)このような状況においては、より安い家賃+個人の部屋が手に入るキャンパス外のアパートメントを借りるという手段を選ぶ方がベターかもしれない。
-----	--------------------------------------	--

3. 生活について

3-1	インターネット接続環境について	
	住居内のインターネット接続可否、プロバイダー、料金等について記入してください。	寮を含め、キャンパス全体にUWのwifiが通っているため、学内で生活する限り、困ることは一切ない。別途使用料もかからない。
	大学内のインターネット接続可否(wi-fi)等について記入してください。	基本的にキャンパス内は強力なwifiが通っているため、心配いらない。
3-2	医療について	とにかく医療費がとんでもないので、友人から倒れた時は、救急車ではなくUberを手配しろと言われていた。
	留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。また、健康管理や衛生面について特に注意すべき点について教えてください。	通っていない。(立派なトレーニングセンターがあるので、体を鍛えたりするなど、運動習慣を持つことで、ある程度心身の健康を保てると思う。)衛生面に関しては特に日本とは何も変わらない。
3-3	銀行口座等について	HUBという建物の中にUS BANKのオフィスがあり、口座手続きをスタッフの手助けを借りながらできるシステムになっている。(私も一応口座開設を行なった。)
	留学先でお金を引き出す為にどんな準備・手続きをしましたか。(現地口座開設、キャッシュパスポート等)	VISAのクレジットカードをそのまま利用していた。(sony bankのカードを持っていたので、現地通貨をそのまま引き出すことも可能であった。)

4. 経費について(奨学金、留学費用)

4-1	奨学金を受給していた場合、奨学金名(財団名等):	JEES学研災グローバル人材育成奨学金
	支給額(円/月):	10万円

	その他(渡航費等の支給):	20万ほど
4-2	留学期間を通して必要だった費用を記入してください。(概算で結構ですので、円価で記入してください。)	
	航空運賃:	行き:110,000円 帰り:220,000円
	住居費:	(月額) 158,652円(\$1017) × (留学月数) 9ヵ月 = 1,427,868円
	食費:	(月額) 55,380円(\$355) × (留学月数) 9ヵ月 = 498,420円
	保険料:	73,370円
	その他:	500,000円
	合計(留学期間全体の費用):	2,499,658円(ポストンキャリアフォーラムの費用は含んでいないのであくまで参考程度に)

5. 異文化体験について		
5-1	留学先の文化・社会(習慣の違い等)について記入してください。	天候の予測ができないので、ほとんどの人が雨が結構降っていても、傘を差さない上、携帯もしていない。
	大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトを持ちましたか。	基本的に学内の友人や教授としか関わっていなかった。(大学の教授の方のコネクションでボーイングの元役員の方主催のツアーに参加等はした。)
	課外活動(ボランティア、インターンシップ、アルバイト等)はしましたか。	していない
	留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。(安全性、外国人への態度等)	治安ははっきり言って日本と比較するとはるかに悪い。ただ、人種差別は一切、経験していない。ただ、男女で多少違うかもしれない。

6. 就職活動について		
6-1	留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、どんなことをしたか教えてください。	就職活動を行なった。ポストンキャリアフォーラムに参加し、オファーも貰ったがその後辞退し、2,3月からの一般選考にオンラインで参加し、内定を貰った。

7. アドバイス、振り返り		
7-1	現地で参考となった留学先国の情報(出版物、ホームページ)を記入してください。	日本から持参したガイドブック、友人からの口コミ
7-2	現地では手に入らない物、日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。	ふりかけ、ツナ缶、カイロ(日本のものの方が長持ち)
7-3	留学することによって得られたことについて記入してください。(語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等)	周りの学生の意識も高く、キャリアプランについて考えさせられるタイミングが多いので、どういった企業に勤めたいのか、何を人生において優先するべきなのかについての考えが深まった。
	語学力について、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。	留学前:() 点 → 帰国後:() 点
7-4	振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。	友人とハイキングに出かけようとして、バスで待ち合わせ場所まで向かった際、財布を失くした事。(後日、King county transportationのlost foundに電話をかけ、財布を取り戻した。正直言って幸運であった。)
7-5	留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。	大変丁寧に対応していただきました。感謝しております。
7-6	本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。	大いに薦める。理由としては、日本国内で英語学習に励んだり、海外の学生とコンテストなどに取り組むのと、実際に別の国に単身で乗り込んで、生活し、0からコネクションを築いていくのでは、得られるものがまるで違うからである。
7-7	留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。	(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)
	・留学先大学の授業の「質」(内容、レベル等)に満足しましたか	5
	・留学先大学の学生サービスに満足しましたか	4
	・留学先の住み心地(安全性等)に満足しましたか	3
	・住居の「質」(広さ、料金等)に満足しましたか	1
	・全体として留学に係る費用は安くつたかと思いい、満足しましたか	1
	・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか	5
・留学全体の総合的な評価	4	

8. その他感想、後輩へのメッセージ等を自由に記載してください。(800字～)		
<p>留学生活、授業、就職活動の三つの観点で感想を述べたいと思う。まず、留学先の生活についてであるが、物価がおよそ日本の3倍であるので、かなり経済的には苦しい生活を強いられる。私の場合は、一日二食の生活をし、食費を抑えるなどしていた。ただスーパーのタイムセールやHusky cardへの入金しているお金を使って学内で買い物を買えば済ませれば何とか。治安に関しては、昼夜問わず、怪しい人はたくさんいるので注意が必要である。特にlink light railの駅や電車内、バスなど公共交通機関を利用する際には注意が必要である。授業に関してだが、fosterの授業はどれも一級品であり、とにかく教授の方が信じられないほどエリートばかりである。また大学全体として、実業界で活躍できる即戦力を養成しようという雰囲気があるので、とても実践的な内容であるケースが多い。そうした環境で学ぶ中で、自分自身もアメリカで働くわけではないが、キャリアについて以前より現実的にそして深く考えるようになった。就職活動に関しては、理想としては、11月頃に行われるポストンキャリアフォーラムで内定を取れるのが理想だが、そこでしくじると、3月ごろからスタートする一般選考に時差を無視して参戦する必要が出てくるので厄介である。周りでは、卒業を伸ばすKIBER生も多いたが、自分は就職浪人をしたくなかったので、無理矢理就職活動と留学を並行し、内定を取った。色々書いたが、異国の地で0からコネクションを築き、文化に適応して生活していくという経験はタフなものであると同時に、人を大きく成長させてくれる機会だと思う。特にアメリカは留学先として様々な人種が集まり、授業もハイレベルで実践的なものが多いので、最適である。(これは余談だが、就職活動なども見据えると、人事からの受けもヨーロッパやカナダ、オーストラリアと比較しても受けが良い。)</p>		

9-1	あなたの報告書の一部を引用して、本学の印刷物やウェブサイトに掲載することに同意しますか？	はい
9-2	あなたの写真を本学の印刷物やホームページに掲載することに同意しますか？	はい
9-3	学部のウェブサイトに報告書を記載します。留学を検討している経営学部生があなたに連絡を取る事に同意しますか？	はい

ご協力ありがとうございました。本報告書は大変有益な資料になります。

1-4 近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	授業で の使用 言語	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等の成績評価 についてアドバイスも含めて教え てください
1	FIN460	Christopher Hrdlicka	100min *2/per week	4	English	40~50人	毎週のエクセルを用いた課題と中間テスト、期末テストが成績の大半を占める。毎週の課題がかなり厄介である。
2	FIN462	Monica Marin	100min *2/per week	4	English	50人~ 60人	デリバティブなどを扱う。Forward contractやFutures contractなどの理論を本質的に理解していないと中間テストや期末テストで点数を取ることはできない。(中間テスト、期末テスト、チーム課題が成績の大半を占める。)
3	FIN490	Phillip Bruner	100min *2/per week	4	English	20人程 度	サステナビリティファイナンスの授業。発表+期末テストが成績の大半を占める。
4	FIN350	Jarrad Harford	100min *2/per week	4	English	50~60人	ごく普通のコーポレートファイナンスの授業。初学期に履修することをお勧めする。
5	MKTG301	Esther Uduehi	100min *2/per week	4	English	50~60人	基本的なマーケティングのフレームワークを学ぶ授業。学期の最後にグループでプレゼンを行う。三回のテストとプレゼンで成績が決まる。

6	IBUS300	Leta Beard	100min *2/per week	4	English	50~60人	各国のcultural differencesがどのようにビジネスのコンテキストに影響を与えるのかを学ぶ。最終プレゼンでは、企業のビジネスの進出先を選定し、ブースなどを設置し、教授や他の学生に対してピッチを行う。
7	FIN423	Xu Lu	100min *2/per week	4	English	20~30人	主にサブプライムローン問題に関して、ファイナンス理論を用いて構造や原因などを学んでいく。
8	MKTG430	Barry Erickson	100min *2/per week	4	English	20~30人	心理学的アプローチ、理論を一通り学んだ後、最終プレゼンでロールプレイングをする。スクリプト作成などを
9	IBUS491	Hiroki Onitsuka	100min *1/per week	1	English & Japanese	10人~20人	UWの日本語サークルのようなもの。日本へ留学予定の学生などが集まり、日本語と英語を使ってアクティビティを行う。
10							

・授業(カリキュラム等)について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスのサイズに関しては、一クラス、約50~60人ほどのものもあれば、15~20人程度のものもある。400レベルの授業は比較的履修者が少ないケースが多く、よりインタラクティブな内容である可能性が高い。(グループディスカッションやプレゼンなどを含む)成績評価に関しては、教授によるとしか言いようがない。ただ特徴として、日本の大学のようにfinalだけでgradeが決まるケースは稀であり、日々の課題、レポート、quiz、プレゼンなどを含む総合的な取り組みの質によってgradeが決定することが多い。現地学生の取り組みとしては、人によってまちまちである。本当にやる気のない、テストだけに現れる学生もいれば、オフィスアワーをよく利用する学生もいる。ただ、fosterにいる学生のほとんどはグループプロジェクトやチーム課題に対して積極的であり、協力的であるので、他の学生の取り組みによって自分の成績が大きく左右されてしまうことを心配する必要はあまりないと思ってもらえればと思う。(また教授によっては、peer reflectionのようなチームメンバーの評価を各メンバーが匿名で教授に提示できる機会を与えられるケースもある。)